

国際ロータリー第2730地区

高鍋ロータリークラブ

会報



会長 多賀 学昭
副会長 川上 幸子
幹事 坂田 師通

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30

例会場 ホテル泉屋 2F

事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋1368-4
ホテル泉屋内 TEL・FAX 0983-21-1636

第2328回 令和7年1月23日プログラム

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング | 8. 委員会報告 |
| 我らの生業 | 9. 点 鐘 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. |
| 4. 会長の時間 | 11. |
| 5. 幹事報告 | |
| 6. 出席報告 | |

高鍋ロータリークラブテーマ

『共に語り、共に栄え、共に未来への種を蒔こう』

第2730地区ガバナー 笹山 義弘

中部グループガバナー補佐 戸高 勝利

RI会長テーマ 『ロータリーのマジック』

第2730地区テーマ

『ロータリーのマジックで、ロータリーを楽しもう』

1月の月間テーマ

職業奉仕月間

本日の例会案内

*職場訪問

ママンマルシェ (高鍋町)

12:20 現地集合

次週例会案内; 1月30日 (第2329回)

*外部卓話—宮日支局長 新坂英伸様

*100万ドルランチ

*例会終了後プログラム委員会

第2327回 例会内容 (1/16)

□会長の時間

会長 多賀 学昭 君

皆様今日は、本日もご出席ありがとうございます。

先日は突然の地震でびっくりしました。地震というのは前触れ無しですから本当に怖いですね。

さて、お正月も半ばを過ぎましたが、正月明けということで思い出した話を少しさせていただきます。以前幼

稚園の通園バス(ワゴン車)を運転しながらカーラジオでNHKの第2放送の「経典を読む」という番組を聴いておりました。話し手は東京中野区にある宝仙短期大学(真言宗系の女子大)の学長だった紀野一義さんでした。この方は広島市の日蓮宗のお寺の出身でしたが、東京大学印度哲学科に在学中、学徒動員で兵隊にとられ、終戦まで台湾で不発弾の処理という大変危険な任務についておりました。

終戦後はしばらく捕虜収容所におりましたが、釈放されて船で広島の子品の港に戻って来ました。ところが広島は原爆で焼け野原になってしまっておりました。焼け野原になると全然自分が住んでいたところも分からないそうです。やっとのことで自分が生まれ育った寺に



たどり着きましたが、寺は無くなり、住職だった父親も、優しかった母親も、自分が大層かわいがっていた妹もみんな原爆で亡くなっており、本堂の焼け跡とおぼしき所に新しい卒塔婆が三本立っていたそうです。そのあと紀野さんは岡山県の津山の寺に嫁いでいたお姉さんを頼って訪ねていきました。「ごめんください。」と声をかけると「は〜い。」と返事があってお姉さんが出てこられました。お姉さんはその場に立ちすくんで何回も紀野さんを頭から足まで見直し、足があることを確かめると「わー!」とその場に座り込んで泣かれたそうです。てっきり弟は戦死したのだと信じ込んでいたのです。それから半年間、紀野さんはぼんやりと中国山地の山並みを見ながら過ごしましたが、やがて気を取り直して東大に復学することにしました。東大では学問に打ち込むだけでなく深い信仰を持ち、自ら「真如会(しんにょえ)」という修養団体を組織して修行に打ち込んでおりました。

昭和30年代初め、正月明けに紀野さんは鎌倉の円覚寺を訪ねて夏の修養会の申し込みをしておりましたが、事務所で手続きを終えて廊下に出ると円覚寺の管長様だった朝比奈宗源老師にばったり出会ったそうです。「おお、紀野君。来ていたのか。まあちょっと寄って行きなさい。」と呼ばれて部屋に連れて行かれましたが、管長様の座敷と言っても禅僧の部屋ですから質素なものです。「餅を食え。」と言って正月のお供え餅を切ったやつを火鉢で焼いてくれ、「お茶を飲みなさい。」と手ずからお茶を淹れてくださいました。

皆さまは朝比奈宗源老師と聞いてもピンとこないでしょうが、かつて TV 時代劇の『水戸黄門』や『大岡越前』の題字を書いた人だと言えれば知っているらっしゃるかも知れません。写真で見てでさえ厳しい風貌の方でちょっと近寄りがたい感じがいたします。その朝比奈老師がふと手を止めて突然「あのなあ、ワシは五つのときに母親に死に別れてなあ。」と語り出しました。「あれはワシが五つで弟が三つのときだった。母親というのはワシらが物心ついたころからずっと身体の具合が悪くて臥せていたが、ある日ワシと弟が近所の友達の家で遊んでいたら、家から使いの者が来て『おっかさんの具合が悪くなったからすぐに帰れ』という。急いで帰って母の枕元に二人で正座したら、母親がやつれた顔で『お帰り。これからお前たちに大事な話があるからお聞き。おっかさんはね、もうこの世の寿命が尽きたようだから、これからお前たちにさよならをして、遠い遠い仏様の国へと行かなくちゃならない。お前たちはもう二度とおっかさんの顔を見ることは出来ないのだから、今のうちにおっかさんの顔をしっかりと瞼の裏に焼き付けておきなさい。』そう言われて二人とも一生懸命母の顔をにらんでいたら、『お前たちはまだ小さいから、おっかさんの顔が見れなくなったら、きっと悲しくなったり淋しくなったりするでしょう。でもね、心配しなくていいんだよ。たとえお前たちからおっかさんの姿は見えなくても、おっかさんは何時だって何処でだって草葉の陰からお前たちのことをちゃんと見守っていてあげるからね。心配するんじゃないよ。わかったね。』そう言われて二人こっくり頷いたら『わかったら向こうでおとなしく遊んでいなさい。』と言われ、庭で遊んでいる間におっかさんは大人たちに囲まれて息を引き取ってなあ。」それから母親の枕経、通夜、葬式、三日参り、初七日法要が済んだら、弔問客でゴった返していた家の中から、親戚の者も一人帰り二人帰り、とうとう父親と幼い兄弟だけが取り残されました。さあ、そうしたらにわかに淋しくなって来ました。夜、幼い二人で冷たい寝床に潜り込んで「おっかさんは何処へ行ったのかなあ。会いたいなあ。」「おっかさんはお葬式の後、村の人たちに担がれて村はずれの墓に埋められたよなあ。」「あつ、ひよつとしたら。」幼い知恵をめぐらしてとても良いことを考え付きました。」

翌朝、目が覚めるのももどかしく村はずれの墓地に行き、母親のお墓の周りの草の葉を一枚一枚めくって歩きます。お母さんがいまわの際に「草葉の陰から見守っていてあげる。」と言ったものですから、「どこかに母親の顔をした虫か何か地面から這い出てきて葉っぱの裏に隠れているのじゃなからうか。」と思って毎日弟と二人で近所中の草むらをめくって歩いてなあ。」

紀野さんは「老師は何だつて急にこんな悲しい話を始めたんだろ？」と天井を見て涙をこらえていたそうです。そうしたら老師は「あんたもなあ。」と言われました。

実は前の年の夏、紀野さんは幼い息子さんを病気で亡くされていたのでした。（以下省略）

□幹事報告 ＜文書案内＞

*西都ロータリークラブ創立40周年記念式典並びに祝賀会のご案内
(5名参加でお願いしたい)
日時 令和7年4月26日
受付 15:30～
式典 16:00～
祝賀会 17:00～
場所 ホテルプリムローズ
登録料 12,000円

幹事 坂田 師通 君



ゲスト 齋藤弘泰様



ゲスト 中岡登志様

□月初めのセレモニー

♥お誕生日おめでとうございます♥



多賀学昭君

♥結婚記念日おめでとうございます♥



高橋康朗君

平山英俊君

□会員卓話

平山 英俊 君



□出席報告

出席委員長 児玉 幸則 君



出席状況報告 (1/16)

会 員 数	38名
出席会員数	30名
ホーム出席率	81.08%
修正出席率	91.89%

□雑誌紹介

広報雑誌 IT 委員長 近藤 真司 君



ソングリーダー 橋口君



ピアノ演奏 森さん

□BOX披露

親睦活動委員長 高橋 康朗 君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

【多賀学昭君】中園登志様、斎藤弘泰様 ようこそお越し下さいました。歓迎いたします。誕生日祝いのお返しを兼ねて。

【坂田師通君】斎藤弘泰様 中園登志様、ようこそ高鍋ロータリークラブへ。入会をお待ちしています。



【平山英俊君】結婚祝いありがとうございました。

【岩村文夫君】おめでとうございます。先週の新年宴会で転んでしまい迷惑をかけました。転ぶのは大学受験で転んだし、慣れているのです。翌日皆様から大丈夫ですかと言葉をかけて頂き感謝です。

【岩切洋君】先日の新年会では石井先生の大変貴重な絵画を正月早々頂き、今年も良い年になりそうな予感です。ありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願い致します。

【藤本範行君】中岡さん、斎藤さんようこそ高鍋ロータリークラブへ！一緒に活動できるよう期待しています。平山先生の卓話も楽しみです。宜しくお願いします。

【高橋康朗君】結婚記念祝いのお返しとして。本年もどうぞよろしくお願い致します。



テーブルの花



本日の食事

次週の例会は職場訪問です！

日時 令和7年1月23日(木)

12:20 現地集合

場所 ママンマルシェ(高鍋町)

職業奉仕委員会